

第 10 回クラシックを楽しむ会

2014 年 5 月 25 日 (日) 18:30~21:30

歌劇「トゥーランドット」(プッチーニ)

会場等：1998 年 9 月、故宮（紫禁城）隣接特設会場※
※北京労働人民文化宮（太廟）
（明・清時代の「太廟」で天安門の東側にある）

楽団等：フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、合唱団、
中国歌劇舞劇院たんぼぼ児童合唱団、
北京舞踏学院、武警北京第二総隊第十五支隊

指揮：ズービン・メータ※

演出：チャン・イーモウ（張 芸謀）

出演：トゥーランドット姫・・・ジョヴァンナ・カゾツラ（ソプラノ）

若い女奴隷リュウ・・・バルバラ・フリットリ（ソプラノ）

匿名の皇子カラフ・・・セルゲイ・ラーリン（テノール）

ティムール・・・カルロ・コロンバーラ（バス）

その他

※インド出身の巨匠指揮者。先祖はペルシャ系ゾロアスター教（拝火教）徒。



捕えられたリュウ（左）、右はトゥーランドット姫



フリットリ(2005)

中国での上演

この公演は、原作の舞台である中国北京で、「太廟」（明・清時代に皇族の位牌等を祭った廟）を豪華で大規模な野外劇場に改修しておこなわれた野外公演である。西洋諸国による中国蔑視の象徴的作品とされてきた歌劇「トゥーランドット」を改革開放政策に舵を切った中国が人民解放軍部隊をエキストラ出演させたこと、中国を代表する著名な映画監督チャン・イーモウが演出したことが大きな話題となった。



横幅 70m 近い巨大な北京労働人民文化宮（太廟）

簡単なあらすじ

伝説時代の中国の北京。トゥーランドット姫は結婚を申し込む者に 3 つの謎をかけ、解けなければ首を切ってしまうという冷たいお姫さま。流浪の王子カラフがこの謎解きに挑戦して見事 3 つの謎を解き、最後に 2 人が結ばれるという物語。

名曲「誰も寝てはならぬ」

世紀の名テノール歌手パバロッチェが、死の前年の 2006 年にトリノ五輪開会式でこの歌劇の aria 「誰も寝てはならぬ」を歌い、そして荒川静香がこの曲をバックに演技して金メダルを獲得したことは記憶に新しい。

第 11 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：歌劇「椿姫」(ヴェルディ) ザルツブルク音楽祭 2005

6 月 15 日(日)18 時開場、18 時 30 分上映開始

現代最高の歌姫ネトレプコのヴィオレッタをどうぞお楽しみに

7 月以降、「フィガロの結婚」、メルビッシュ音楽祭の「ウィーン堅気」等を予定。

あらすじ

【第1幕】北京の城門の前

宮殿（紫禁城）の城壁前の広場。役人が群衆に「美しいトゥーランドット姫に求婚する男は、彼女の出題する3つの謎を解かなければならない。解けない場合は斬首される」と宣言。今日も謎解きに失敗したペルシアの王子が、喝采する群衆の中を引き立てられてくる。戦に敗れて放浪中のダッタン王子カラフは、召使いリュウに手を引かれた父、盲目の元ダッタン国王ティムールを発見して互いに再会を喜ぶ。トゥーランドット姫がペルシア王子処刑を見るため広場に現れ、カラフは一目見てその美しさの虜となる。ティムール、リュウ、そして宮廷の3大臣ピン、ポン、パンが思いとどまるよう説得するが、カラフはトゥーランドットの名を叫びながら、自らが新たな求婚者となることを宣言する。

【第2幕】第1場 中国を象徴する模様のカーテンに仕切られた幕舎

ピン、ポン、パンの三大臣がトゥーランドット姫とカラフの噂話をしている。

【第2幕】第2場 宮殿の前の広場

トゥーランドット姫の父、皇帝アルトゥームがカラフに無謀な試みをやめるよう説得するがカラフは耳を貸さない。トゥーランドット姫が冷やかな表情で出てくる。

カラフの謎解きの場面。トゥーランドット姫は「先祖の美しいロウ・リン姫が、異国の男性に騙され、絶望のうちに死んだ。自分は彼女に成り代わって世の全ての男性に復讐を果たすため、求婚者に謎を出題して葬ってきた」と説明。

第一の謎「毎夜生まれては明け方に消えるものは？」に「それは希望」第二の謎「赤く、炎の如く熱いが、火ではないものは？」に「それは血潮」と正解を返す。最後の謎「氷のように冷たいが、周囲を焼き焦がすものは？」にも「トゥーランドット！」と正答する。

謎がことごとく打破されて「私は結婚などしたくない」と父アルトゥーム皇帝に哀願するが、皇帝は「約束は約束」と娘に翻意を促す。カラフは姫に対して「それでは私もたった一つの謎を出そう。私の名は誰も知らないはず。明日の夜明けまでに私の名を知れば、私は潔く死のう」と提案する。

【第3幕】第1場 宮廷の庭

北京の街には「今夜は誰も寝てはならぬ。求婚者の名を解き明かすことができなかつたら住民は皆死刑とする」とトゥーランドット姫の命令が下る。カラフは「夜明けには私は勝利するだろう」と高らかに歌う。ピン、ポン、パンの3大臣は求婚を取り下げるよう願うが、カラフは拒絶する。ティムールとリュウが、求婚者の名を知る者として連行されてきてリュウは拷問を受ける。彼女は口を閉ざし衛兵の剣を奪い取って自刃する。リュウの死を悼んで全員が去り、トゥーランドット姫と王子だけが残される。

王子は姫に熱い接吻する。姫はリュウの献身に冷たい心に変化が生じて彼を愛するようになる。ここで王子は自らの名がカラフであることを告げる。「名前がわかった」と姫は人々を呼び戻す。

【第3幕】第2場 王宮前の広場、翌朝

トゥーランドットとカラフは皇帝の玉座の前に進み出る。姫は「彼の名は……『愛』です」と宣言する。群衆は愛の勝利を高らかに賛美、皇帝万歳を歌い上げる中で幕となる。

聴きどころ

第1幕 リュウの「お聞き下さい、王子様」、カラフの「泣くな、リュウ」

第2幕 トゥーランドットの「この宮殿の中で」、謎解きの場のトゥーランドットとカラフの二重唱

第3幕 カラフの「誰も寝てはならぬ」、リュウの「心に秘めた大きな愛です」と「氷のような姫君の心も」

初演時のエピソード

この歌劇は1926年、トスカニーニの指揮でミラノ・スカラ座で初演されたが、第3幕第1場の途中、「リュウ」が自刃した場面が終わると指揮を止め、聴衆に「マエストロはここまですべて筆を絶ちました」と述べて舞台を去り幕が下ろされた。また、トスカニーニが開演前のファシスト党歌演奏を拒否したため、世界の要人が集まる中、ムッソリーニだけ欠席を余儀なくされた。

歌劇「トゥーランドット」メモ

「トゥーランドット」は、ルイ 14 世時代のフランスの東洋学者フランソワ・ペティ・ド・ラ・クロワ (1653 - 1713) が書いた物語集「千一夜物語」※の中の「カラフ王子と中国の王女の物語」をもとに、イタリアの劇作家カルロ・ゴツィ (1720 - 1806) が書いたものである。台本はジュゼッペ・アダーミとレナート・シモーニの 2 人が劇と歌詞を分担して作成した。

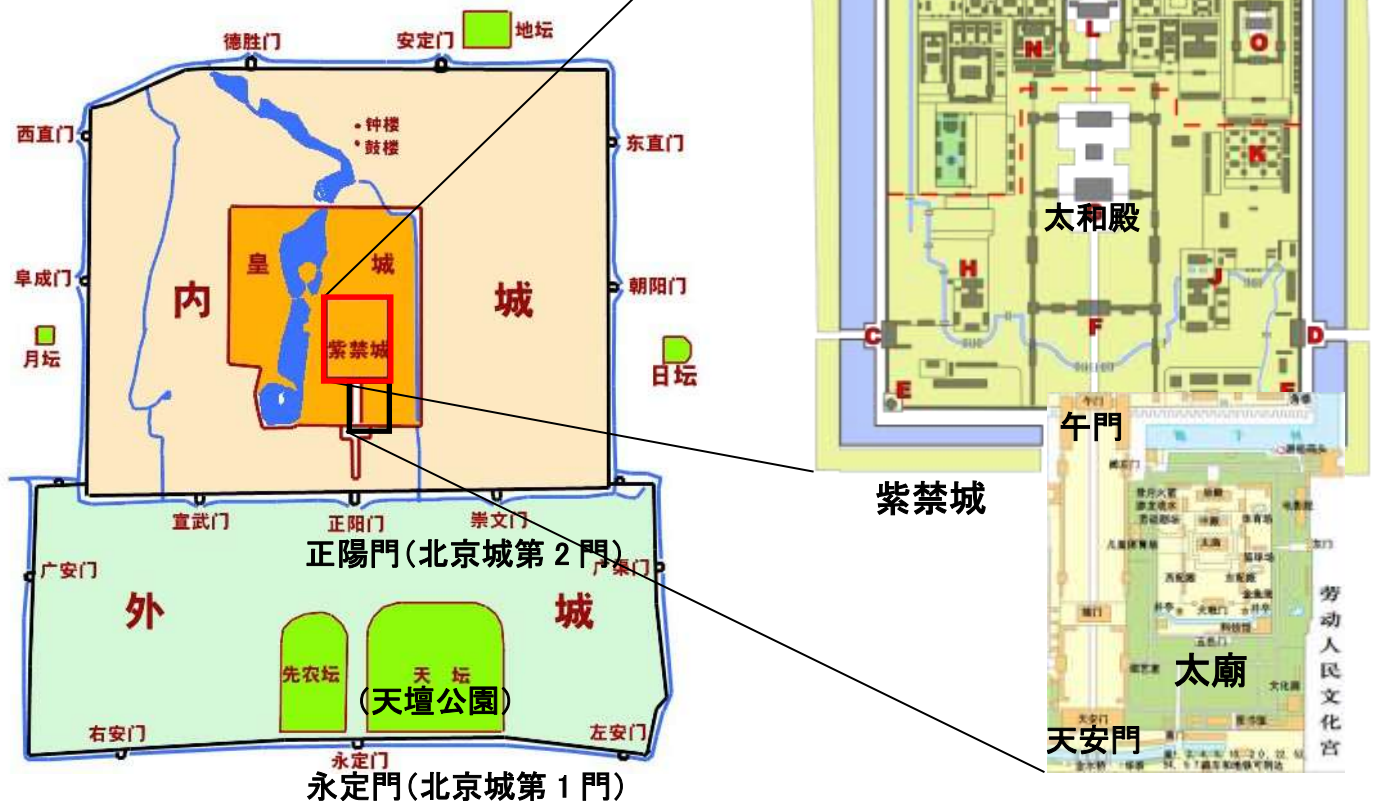
※ほぼ同時代の同じフランスの東洋学者アントワーヌ・ガラン (1646-1715) が有名なガラン写本「千一夜物語」を翻訳してヨーロッパに紹介したが上記とは別物である。しかし上記と同様のペルシャの「謎かけ姫の物語」を含んでいる。

歌劇の重要な役「リュウ」は原作にはない。台本に付け加えられた背景として、1909 年、プッチーニの妻が、プッチーニが女中と浮気していると責め立て、疑われた女中が服毒自殺、プッチーニの妻が起訴されるというスキャンダルとの関係が指摘されている。

歌劇の舞台 北京城

歌劇の舞台は「はるか昔、伝説時代の中国、北京」である。そして実際の公演は紫禁城外の太廟で行われ、演出も明代に設定して衣装や舞台装飾もその時代に徹底して合わせた。

明・清時代の北京城は広大で、外城、内城、皇城、紫禁城の 4 重の構造になっていた。20 あった城門のいくつかは失われているが、永定門から紫禁城に通じる各城門は保存・再建されている。



明・清代の北京城 歴史地図



永定門



天壇



(正陽門の) 箭楼



正陽門



天安門



紫禁城午門